

(2) よみがえった洞海湾

北九州市の下水道整備が本格的にスタートした昭和38年当時の洞海湾は、紫川と同様、ばい煙や汚水による公害で船のスクリーンも溶けてしまうほど汚れ、「死の海」として全国に知られていた。しかし下水道の普及等によって水質が改善され、今では100種類以上の魚介類が棲めるようになった。

当時の洞海湾は、本市の公害問題のすべてが映し出された、悪い意味での北九州市のシンボリック的存在であった。今ではたくさんの生物が棲む海によみがえった。



昭和30年代の洞海湾



現在の洞海湾

2 下水道事業の現況

公共下水道事業は、国の下水道整備緊急措置法に基づく下水道整備五箇年計画により推進されてきた。本市では昭和38年にスタートした第1次五箇年計画(国)と共に本格的に取り組みを開始した。平成17年度末には下水道の人口普及率が99.8%に達した。

今後は、近年増加傾向にある豪雨や地震等に備える対策、老朽化が進んだ施設の取替えや処理水質のさらなる向上など、下水道の役割を着実に果たすために必要な施策を計画的に進めていく。そのため、今後11年間(平成22年度～32年度)の下水道の取組方針となる「北九州市下水道ビジョン」(平成22年2月策定)のもと、市民みんなで力を合わせ、同ビジョンの基本理念である『水めぐる住みよいまち、をめざして』取り組んでいく。

(1) 整備状況

平成28年度末現在下水道が整備された面積は約16,333ha、人口普及率(総人口に対する処理区域内の人口の割合)は99.8%である。

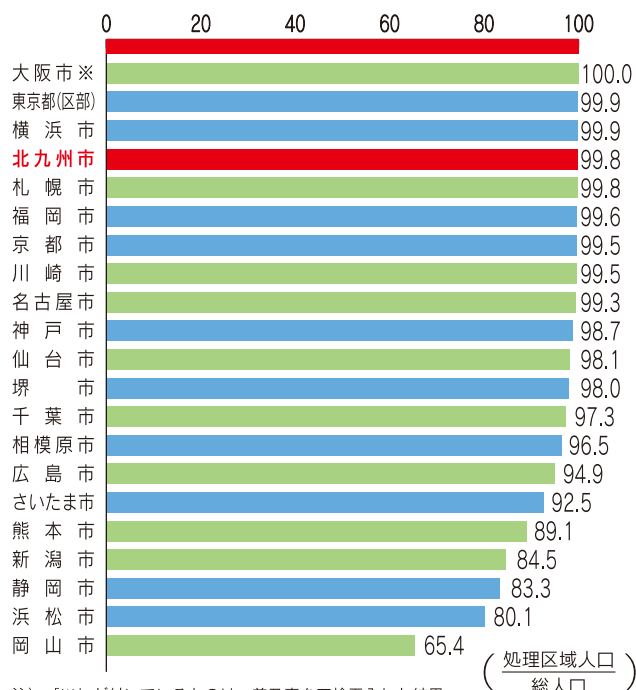
人口普及率(各区分)

(平成28年度末)

	行政区域内人口	処理区域内人口	普及率
門司区	100,763	100,516	99.8
小倉北区	179,834	179,472	99.8
小倉南区	212,951	212,680	99.9
若松区	83,987	83,572	99.5
八幡東区	68,297	68,242	99.9
八幡西区	256,851	256,617	99.9
戸畑区	58,652	58,652	100.0
北九州市	961,335	959,751	99.8

※人口は、住民基本台帳人口の数値

大都市の下水道普及状況 (平成28年度末)



下水管の耐用年数は50年、浄化センター、ポンプ場の電気・機械設備は平均で17年程度である。下水道施設は、適切な管理、運営を行うことでその機能が発揮される。機能が十分に活かされないと、浸水や道路陥没、水質汚濁、環境破壊などの原因になるため、定期的な調査やメンテナンスは欠かせない。特に北九州市の下水道事業は昭和38年の五市合併後すぐに本格的に着手され、老朽化が進んでいるものもあり、定期的なメンテナンスが必要とされている。